

(猪俣謙次先生)

この度、日本口腔インプラント学会の専門医試験に無事合格することができました。まずは専門医試験に向けて、日々の臨床でご多忙にもかかわらず、サポートして下さった先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。皆様にアドバイスについては甚だ恐縮の限りですので、試験を受けて気づいたこと、感想等をここに記したいと思えます。

試験の形式は筆記と面接があり、知識を問う筆記は日本口腔インプラント学会の治療指針に記載されていることを、身につけなくてはなりません。また、面接に関しては、その指針にそって、自分が行った治療の起承転結を自分の言葉で説明できなければなりません。今まで学んできたことよりも指針こそが試験の模範解答ですから、それをひたすら読み込むことが、合格の近道になってきます。特に筆記は、合わせて3200字ほどの原稿用紙を埋めなくてはなりませんので、文章を書く練習もしておいた方がいいと思います。

私が今回合格に至ったポイントを自分なりに分析しますと、自分が今まで学んできたことと、治療指針に書かれていることのギャップを埋めていったことだと思えます。「自分と少し考えかたが違うな。」「自分ならこのようなテクニックがあるのに。」等のエゴはすべて捨てました。もう一度初心に帰って、自分のやってきたことと照らし合わせて、同じところはそのまま、違っているところは修正して、まとまるように工夫したことが結果につながったように思えます。

また、試験官の先生方との相性も付け加えておかなければなりません。臨床に強いこだわりを見せる先生もいれば、身なりや言葉遣いを重視する先生もいます。人対人なので何を答えても認めてもらえないということもあるようなので、合格しなかったから専門医にふさわしくないということはありません。そこは運なので、自分の力の及ばないところですから、気にする必要は全くありません。しかし、なるべく二言三言交わした後で、試験官がどのようなタイプなのか、どのようなことを聞いたがっているのか、臨機応変に対応できれば、より合格に近づくのではないのでしょうか。

これから専門医や専修医を目指す先生方の中には、少しずつ準備されている方もいらっしゃることでしょう。専門医試験も年々ハードルが、高くなっていくことが予想されます。それは試験内容というより、提出資料です。術前の口腔内写真、パノラマやCTなど、必要とされているものは必ずとおいてください。私自身、術前の口腔内写真がなく、使用できなかったケースが結構ありました。日々の臨床の中で、なかなか手間だとは思いますが、ルーティーンワークにしてください。

日本口腔インプラント学会の専門医は、一般開業医にとって、とても魅力的な認定医ではないのでしょうか。様々な学会がありますが、会の規模、先進性では他に類を見ないと思えます。大学病院や開業医を問わず、様々な先生が参加されていることも魅力の一つです。ぜひ目標を定めてがんばってください。最後になりますが、皆さんが合格されるのを祈っております。